

阿弥陀岳北西稜



阿弥陀岳北西稜

期 間：2024年3月3日（日）
種 別：会山行
山 域：阿弥陀岳北西稜
参 加 者：柴田吉暁(L)、河本嘉照(記)

コースタイム：

3:49 赤岳山荘 5:30 北西稜への分岐 7:17 取付き 8:41 第一岸壁 10:40 第二岸壁 12:31
阿弥陀岳山頂 12:54 中岳のコル 13:20 行者小屋 14:52 赤岳山荘コース状

北沢登山道から取付きへのトレースは50m程で消失。そこから稜線に出るまでラッセルを強いられるが、ヤマレコの足跡を頼りにそれなりスムーズに移動できた。下部雪稜歩きはロープを出すか迷うところではあるが、我々は時短の為省略。1箇所悪い所があり肝を冷やした。バンドに到着すると、いよいよ上部岸壁が現れ、本格的なクライミングになる。

ここから先は、岩稜ルートと巻きルートに分かれるが、我々は岩稜ルートを選択。このピッチは出だしと最後が少し悪いが、良い間隔で支点が取れるのでそれなりに思い切ってトライできると思う。このピッチは柴田が50mロープいっぱい強引にピッチを繋げてくれたが、ロープの流れを考えたら途中で切っても良いかなと思ったが、今回は運良くトラブルなく時短に繋がった。ここから先はいよいよ核心だが、我々は左

巻きのアブミルートを選択。トラバースは私が受け持ったが、雪の状態も良く特に問題なく通過。バンド下にハンガーボルトが2つあったので、ここを終了点とした。最終ピッチは、先ずバンドに上がる箇所がバランスを崩されちょっと難しい。その後右へトラバース気味にスラブまでくれば支点がベタ打ちになっているので、少し安心するのではないだろうか。ただ、ここからが普通に難しい。我々は一応アブミを持ってきたが、使わずに A0 で何とか突破した。核心を抜け、ロープをたたみ頂上へ。この間は特に問題ないと思われる。降りの中岳沢を通過したが、雪崩には十分注意したいところ。行者小屋から赤岳山荘は特筆すべきところはない。普通に歩いてゴールした

感想

柴田の成長が著しい。ロープもたった 3P しか出さず、クライミングパート全て彼が担当した。ロープを出さなかった分、全体的なコースタイムも早かったのではないだろうか。風が強かったので、あまり写真を撮る事ができなかったが、概ね満足のいく山行となった。

